

ミレニウムを祝うお祭り騒ぎも終わり、いよいよ2000年という新しい節目の年を迎えた。確率的にはいつもの1年であり、何も特別なものではないと思っているものの、そこは人の世の中、皆が騒ぎ2000年の正月を迎えると、何かしら大変な時代を生きていると実感し、誇らしげにさえ思うのである。

また、世紀末思想による大破局も起こらず、Y2K問題も無事クリアできたことは大変喜ばしい限りである。一部には、コンピュータ問題で大騒ぎしたのはこれを商売の千載一遇のチャンスとして暗躍した米国の陰謀であるとする輩もいるようだが、何はともあれ素直に世の安泰を喜びたい。

“ミレニウム”を辞書で改めて引いてみると、「キリスト生誕からの千年間」とある。では、21世紀の始まりはというと、多くは「2001年から」とある。ちなみにドイツの辞書では「2000年から21世紀」となっているそうである。キリスト教総本山のパチカンは、ミレニアムの始まりは2000年でも2001年でもどちらでもよしとの公式判断を示しているようである。

さて、本号は記念すべき2000年代最初の記念号であり、21世紀の内視鏡下手術の展望として本学会の構成メンバーの各分野から将来を展望していただいた。

まず、全分野に関わるテレサージェリー、ついで消化器外科、一般外科(乳腺・甲状腺疾患)、心臓外科、血管外科、呼吸器外科、小児外科、産婦人科、泌尿器科、形成外科、整形外科と現在内視鏡外科が行われている全分野から、現況と展望につきレビューしていただいた。

さらに今回は、実際に内視鏡外科手術機器を提供し、かつ新たな機器の開発に真剣に取り組んでいただいているオリンパス光学工業の降旗廣行取締役、光学および工学の立場から21世紀の内視鏡外科を展望していただいた。この紙面をお借りして、感謝の意を表したい。また、内視鏡の登場を100年以上前に予想された福沢諭吉翁を塾祖とする慶應義塾大学の外科学教室で内視鏡外科に携わり、同時に弁護士としてご活躍の古川俊治先生に、内視鏡外科の発展により直面するであろう法的諸問題について詳しく解説していただいた。

本特集で言及されているものは、昔は夢物語であったテレサージェリー、ロボティクス、バーチャルリアリティ、マイクロマシンなどで、まさに現実のものとなった、あるいはなりつつあるもので、将来とはいっても20年、30年後までの予想であろうか。

同じ21世紀でも、22世紀直前の2999年はどうのことになっているのか考えも及ばない。やはり世紀末として、たくさんのカルト宗教が出て世を乱すのか、少なくともY2Kはすでに解決できたので、その頃には病院のような形態があるかどうかかわからないが、年末年始にかけて泊まり込んで万に備える必要はないであろう。

(北野正剛)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第5巻 第1号) 2000年2月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery(Tokyo)

1部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1部定価(本体2,600円+税)(配送料110円)となります。2000年 年ぎめ予約購読料: 16,380円(配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会(代表: 出月康夫)

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 (財)日本学会事務センター内

(☎ 03-5814-5801 Fax 03-5814-5820 担当: 高柳) <http://www.mic.med.tohoku.ac.jp/jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 5-16-9 Honkomagome Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8622, Japan

© 2000, Printed in Japan

発売: 株医学書院(代表: 金原 優)(本誌担当: 青木, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 株文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。